

2. 本校の一事徹底について

「家庭学習の充実」

各教科の基礎・基本の定着のため、家庭学習の習慣化を図り、生徒の学力向上を指導・支援する。

(1) ねらい

- ①家庭学習の習慣化を図る。
- ②基礎基本の定着を図る。
- ③学校と家庭が、連携して各生徒の育成について共通実践をすすめる。
- ④内容の充実を図ることにより、効果的に学力を身につけることが出来る。

(2) 取組内容

- ①本校独自の家庭学習ノート「愛汗大志」を使用する。
 - ・最初の1冊目は生徒全員に一斉に配布する。2冊目以降はノートを使い切った生徒は、校長先生に提出し、終了証とノートをもらう。
 - ・1冊終了毎（終了証をもらった生徒）に、校長先生は「家庭学習山登り表」へシールを貼る。
- ②家庭学習は1日1時間以上、1ページ以上行うことを目標とする。
- ③家庭学習ノートの年間目標冊数は、1人あたり5冊以上とする。
- ④家庭学習賞を設定し、家庭学習の内容の良い生徒を選び、表彰を行う。
 - ・家庭学習賞（1・2学期に各学級から3名）
 - ・1ヵ年家庭学習賞（年間を通して、各学級から3名以内）
 - ・目標冊数達成賞（年間で5冊以上を達成。但し、終了証をもらった生徒に限る）

(3) 家庭学習の活性化について

- ①家庭学習ノートのページには、必ず「日付」、「めあて」、「感想」「保護者サイン」を記入させる。
- ②家庭学習ノートを使い切ったら、必ず自己評価と保護者及び担任のコメントを記入する。
- ③取り組みの良い家庭学習ノートは、1Fオープンスペースに展示する。
- ④「家庭学習山登り表」「家庭学習提出一覧表」「家庭学習カレンダー」を活用する。
- ⑤1週間で5教科をまんべんなくやるようにする。
- ⑥家庭学習ノートリレーを継続し、活用する。（例）
 - ・2学期に学級内でノートリレーを2冊回し、量と質の向上を図る。
 - ・各担任で確認し、内容の良いページを学級で紹介する。

3. 今年度の取組目標

【取組1】地域教育資源の活用

- 各教科、第一次産業体験学習、職場体験学習、平和集会等で、地域の自然、文化、産業や人材を活用した学習を行う。

【取組2】学習環境の充実

- 黙想、チャイム前入室・着席、学習用具の準備等、「本校学習のきまり」の徹底及び家庭学習の習慣化を図る。
- 「整理整頓の日」「教科資料ファイリング」の指導徹底を図る。

【取組3】知学タイムの実施（基礎基本の徹底）

- 知学タイム確認テスト正答率を、国語7割、数学6割、英語1年7割、2年6割、3年6割とし、全生徒の80%以上が、その達成値を突破する。
- 学力向上Webシステムを活用し、Webシステムの活用問題を知学タイムに取り入れていく。

【取組4】確かな学力の充実

- 全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査において、全教科で県平均正答率を上回り、無回答を減少させる。
- 学力向上月間の取組を全校体制で実施する。

【取組5】校内研修の充実

- 各教科研究テーマを設定し、一人一公開授業及び授業参観、授業研究会を行う。

【取組6】「知・徳・体」の3つの教育目標の連鎖

- 全学年で生徒が3つの学校目標から学年・学級目標と連鎖させ学期毎に目標設定・自己評価する。

4. 学力向上推進の取組（キーワード：全校体制・継続と徹底）

(1) 学力向上強化月間（5月・9月）の取り組み

家庭学習を「1日1ページ以上＋授業と連動した各教科の課題」を行う。

①授業と連動した課題（宿題）

- ・月（ ）、火（ ）、水（ ）、木（ ）、金（ ）と曜日を固定し、課題を与える。
- ・曜日毎の教科内容を行う。
- ・家庭学習帳未提出の生徒への居残りは学年又は学級で実施する。

②「家庭学習カレンダー」を活用する。

③「家庭学習帳山盛り表」「学力向上月間ポスター」を掲示する。

(2) 県学力到達度調査及び全国学力調査に向けた取り組み

①ねらい

- ・2学年及び1学年の英数国の既習内容の確実な定着に向けて、定着状況の分析及び対応策を検討し、教科で計画的に実施する。

②具体的な取組

- ・各教科で結果分析を行い、生徒にフィードバックする。
- ・上記の教科は、冬休みの宿題を提示し、生徒にフィードバックする。
ただし、冬休みの宿題は、各教科無理なく出題する。
- ・各教科の取組は、家庭学習、放課後補習、知学タイム等を効果的に活用する。
- ・県学力到達度調査実施後は結果分析・対応策を検討し、次年度の全国学力状況調査に向けて継続して計画的に取り組む。

5. 知学タイムの実施

(1) ねらい

- ①短時間の集中的な取組及びくり返し学習により全ての生徒に基礎的基本的事項の定着を図る。
- ②全職員で指導にあたり、個に応じた指導の充実を図る。

(2) 実施方法

- ①年間実施計画を作成し、週4回、朝の20分間（8:25～8:45）に実施する。
- ②国語・数学・英語を年間を通して実施する。
- ③読書月間・旬間では、最初の1週間は知学タイムの時間を読書に充てる。

(3) 役割分担

- ①国数英の担当教師は、独自教材を準備し授業を行う。
- ②国数英の担当教師以外はTTとして机間巡視や見守りなどを行う。

(4) 各教科の取組例

①数学（全学年共通）

- ・計算練習ノート（副教材）などを活用して基本的な計算練習の問題に取り組む。
- ・Webシステム問題を活用する。

②英語（全学年共通）

- ・既習単語や既習文法事項の復習を行い、定着を図る。
- ・通常の授業とリンクさせ、導入やまとめとしても取り組む。

③国語（全学年共通）

- ・普段の授業で充分確保できないドリル的な学習を授業と、知学タイムをリンクさせて取り組む。
- ・音読（3分）視写（3分）を取り入れ集中力を養うよう工夫する。
- ・漢字ノート（副教材）を活用し、新出漢字の反復練習に取り組む。
- ・1ヶ月というスパンの中で「全体学習（フラッシュカードなどを利用）→個人学習（書き取り練習）→豆テスト→復習→確認テスト」というサイクルで、語彙力の向上を図る。
文法事項においても、漢字の学習で行ったサイクルを活用する。

④各教科共通

- ・全国学力・学習状況調査、県到達度調査、学びのたしかめ（1年国数、2年国数英、3年英）、標準学力調査等の問題や類似問題も活用する。

6. 資料(変更予定)

(1) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果(平均正答率) - 3年生: 4月実施 -

全国学力・学習状況調査(平均正答率)

教科	地域	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度				
国語A	本校	77.0	71.0	75.0	国語	73.0	国語	74.4	国語	58.0	国語	61.0
	沖縄県	71.3	72.0	72.0		68.0		76.4		60.0		64.0
	全国	75.6	77.4	76.1		72.8		74.8		64.6		69.0
国語B	本校	73.3	65.0	59.0								
	沖縄県	63.1	67.0	58.0								
	全国	66.5	72.2	61.2								
数学A	本校	67.4	59.0	63.0	数学	61.0	数学	44.5	数学	49.0	数学	39.0
	沖縄県	54.3	58.0	59.0		53.0		45.1		52.0		42.0
	全国	62.2	64.6	66.1		59.8		45.1		57.2		51.4
数学B	本校	45.7	41.0	42.0								
	沖縄県	37.0	42.0	40.0								
	全国	44.1	48.1	46.9								
理科	本校			68.0	英語	54.0					理科	46.0
	沖縄県			61.0		50.0						44.0
	全国			66.1		56.0						49.3

(2) 令和4年度沖縄県学力到達度調査結果 - R5.2月実施 -

令和4年度県到達度調査結果(正答率)

	2年国語	2年数学	2年英語	1年国語	1年数学	1年英語
本校	42.7%	34.5%	38.5%	59.3%	45.2%	40.7%
南城市	50.7%	44.7%	48.9%	57.4%	47.3%	40.9%
島尻地区	49.5%	44.1%	49.4%	55.4%	45.0%	41.3%
沖縄県	49.9%	43.4%	50.3%	54.9%	44.4%	42.0%

(3) 令和4年度標準学力調査 - 4月実施

令和4年度標準学力調査結果(正答率)

	国語	数学	英語
1年	49.9	49.5	
2年	44.4	39.9	42.4

(4) 家庭学習ノート平均終了冊数

令和5年2月現在

冊数	1年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
男女別(冊)	2.0	4.1	3.6	4.0	2.8	3.1
学年別(冊)	3.3		3.8		3.0	
5冊達成率(%)	29.7%		48.0%		32.6%	